

# 乳・幼児造形研究部会

## 保幼から小中特支へつながる姿と学び —「乳・幼児の造形が気づかせてくれる10のこと」の視点を基に—

Connecting Art from ECEC to Elementary, Junior High and Special School

Based on “10 Understandings from Art Infants and Young Children”

塩見知利 丁子かおる 宮野 周

SHIOMI Tomotoshi CHOJI Kaoru MIYANO Amane

大谷大学 和歌山大学 文教大学

OHTANI University WAKAYAMA University BUNKYO University

### 1. はじめに

今回は、本部会で作成した「乳・幼児の造形が気づかせてくれる10のこと」（以下、10のことの共有とこの学びを広げたいと思います。

### 2. 2020年度第1回部会報告

#### 1) 概要

2021年度第1回の部会は、1月8日（土）10:30-12:00にリモートにて、保育者、養成校教員など部会員15名で開催した。進行は宮野周（文教大学）で、1) 代表の塩見知利（大谷大学）より挨拶があり、その後、2) 部会で継続作成した「10のこと」の広報と、活用した事例の紹介と成果などについての報告（宮野・丁子）、3) 部員間での「10のこと」について活用及び今後について協議を行った。最後に、4) 平田智久（十文字学園女子大学名誉教授）より閉会の挨拶があった。

#### 2) 1月の部会報告

本年度は「10のこと」作成を受けてPDFを学会ページへの掲載、MLを通して会員への案内、チラシの印刷を行った。また、雑誌『教育術』2021年9月号no.951にて、オンライン座談会や、事例紹介、ラウンドテーブル・ミーティングが特集として掲載された。また、10月号以降毎月継続して事例と紹介が各部員によって掲載していることの報告があった。そして、Koyasan 幼児造形集会の研究会（代表；栗山誠部員 関西学院大）と保育造形研究会（代表；塩見）にてそれぞれオンライン・シンポジウムが開催され丁子及び各代表者から報告があった。また、幼児造形研究会にてオンラインによる報告が開催され 200 名を超える参加者と、

「10のこと」で「(子どもの学びや姿が) 言語化されたことですっきりした！」等アンケート結果が宮野より紹介された。その後、部会員より今後の研究会などでの配信、動画作成、授業やシラバスでの活用、歴史研究など各研究の関連、造形教室、保育現場での活用、シンポジウム開催などが話された。

### 3. 東京大会における部会案内（予定）

これを受け3月の部会では、「10のこと」でまとめた乳・幼児期の子どもの姿や学びと、その後につながる小学校図工や、中学校美術、特別支援学校の子どもへの継続と展開について『教育美術』で紹介いただいた各校種より具体的な保育・授業実践について先生方にご発表いただき、部会にて共有する。

### 4. おわりに

- 1) はじめの挨拶
- 2) 活動報告
- 3) 「乳・幼児の造形が気づかせてくれる10のこと」がつなぐ学びと育ちについて幼小中特支の実践事例発表

伊藤裕子（西東京市・谷戸幼稚園）

畠本真澄（神戸市立だいち小学校）

河本俊顕（鳥取市立千代南中学校）

保科由美子（和歌山市立河北中学校）

- 4) 参加による意見交換・交流

- 5) 閉会の言葉

乳・幼児がものと関わる姿、試す姿が原点となって児童期、青年期にどのように力を発揮していくか、または、各校園種でそれが大切にすべきことについて参加者で協議し広く共有できれば幸いです。